

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600468
法人名	医療法人 大志会
事業所名	グループホームうちこ園
所在地	愛媛県喜多郡内子町内子3683番地
自己評価作成日	平成28年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日勤帯の職員は4～5人で対応しており、一人ひとりの利用者の方の個別介護が行き届くような体制を取っている。主治医をはじめ医療機関との緊密な医療連携の下に日常生活の安定と改善を図れるように努力している。地域に開かれたグループホームにするため、地域支援センターや他の関係機関とも連携して地域との交流や地域貢献に努めている。自然豊かな環境や無農薬野菜の栽培などを通して、野菜の収穫を楽しみながら、豊かな四季を体感し、旬の新鮮な野菜を味わえるように働いている。

●行事時の前後に家族会を開き、事業所からの連絡事項等を伝えている。日頃は、来訪時や電話で利用者の日常の様子を細やかに伝えており、「何か気付いたことはないですか?」「要望はないですか?」とそのたびに聞いている。毎月、家族に向けて便りを発行しており、ケアの取り組みについて具体例を挙げて紹介したり、活動等を具体的に知ってもらえるように、写真入りで報告している。家族は、事業所の利用者等へのかかわり方やケアに安心を感じており、満足度がとても高い。
●町内グループホームや家族、地域の人と合同で行う運動会時には、新たに「避難訓練」という種目を設け、簡易担架を作って運ぶ早さを競い、楽しみながら訓練時の体験ができるよう工夫した。
●「おいしいものを食べる」ことを大切にしており、畑で育てた野菜や産地直売所で購入した野菜等を使用して食事を手作りしている。これまで作った食事のレシピを写真入りでためており、どの職員が調理しても同じ味になるように工夫している。レパートリーが豊富で季節感や栄養、バランス、彩りを考えた献立になっている。テーブル席に座ることがしんどいような利用者には、ソファの前にテーブルを置き、職員と一緒に食事をしていた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム うちこ園

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名 片岡 知恵美

評価完了日 平成 28 年 9 月 20 日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 「まごころ」と「思いやり」の事業所全体の理念及び目標を事業所内に掲示して、職員全員が日常的に意識出来るようにしている。また、職員一人ひとりの個人理念を作成し掲示して、皆で共有し合いながら、尊厳を守り、笑顔で安心して過ごして頂けるように、より良い介護を目指せるよう実践している。	
			(外部評価) 事業所理念とともに目標を立てている。目標の達成に向けて職員個別に理念をつくり、事業所理念の実践に取り組んでいる。理念や目標は、玄関を入ったところにある事務所の外・内側に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの神社に参拝したり、内子八十八か所巡りをしたり、高昌寺の涅槃像に参拝して地域の方と話したり、道の駅の特産品売り場で知り合いの人と話ができるなど地域とのつながりを持つ事が出来ている。読み聞かせボランティアの訪問や、子供たちの訪問もある。また、同じ地区の住人の方がお花や野菜を持って話に来て頂くこともある。	
			(外部評価) 法人全体で催す「うちこ園まつり」や「お弁当をひろげる会」、又、町内グループホームと合同で催す「運動会」等に、地域の方も招き交流している。買い物や外食等で地域の店を利用している。	立地条件もあり、地域の方達との近所つきあいがし難いが、法人で、内子駅前に新たに認知症カフェ(メモリーカフェ)を作ったことをきっかけに、事業所の専門性等を活かしながら、地域との新たなつながりを作っていってはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域住民を対象に認知症の理解及び接し方等についての研修会を実施している。また他の事業所より依頼を受けて、他事業所の新設解説における従業員の現場実習を提供するなど協力して実習生の受け入れにより人材育成への貢献にも努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 会議型の運営推進会議と交流型の運営推進会議を実施して参加 者の方への理解を深めるように、認知症の介護の実際について説 明したり、笹まつりの笹飾りを一緒に作成して現状の把握をして頂 き、高齢者の介護に対する今後の課題などを共に共有できるように 努めている。また地域の行事等のお誘いをいただいたりと協力関 係を築くこともできている。	
			(外部評価) 前回の外部評価実施後、目標達成計画をつくり、会議の形態に会 議型を採り入れて取り組んでいる。報告方法についても、写真入り の資料を作り工夫している。又、見学等をしてもらう際には、取り組 みや支援が分かりやすいように、前もってケア等の説明を行った。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 必要時は地域のグループホームの定期的な連絡会に集団指導と して参加していただき情報提供をしあって協力関係を築いている。 地域包括支援センターからの依頼により、新規の介護相談員の養 成における現場実習を受けて、当施設の現状や取り組みなどにつ いて、また内子町内のグループホームの連絡会についてなど説明 をして相互理解にむけて努めている。	
			(外部評価) 町内グループホーム連絡会を毎月行い、勉強や情報交換等 を行っており、必要時には町役場の担当者から指導や連絡事項等が ある。又、事業所から介護相談員の必要性を投げかけ、そのことが きっかけとなり、現在、内子町に介護相談員が養成されており、事 業所でも実習を受け入れている。3月の運営推進会では、町役場 の担当者から介護保険等の説明をしてもらうことが恒例となってい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 地域密着型サービス協会や法人内の研修会に参加し身体拘束につ いての知識を高め職場内でも勉強会を開き人権を守る事が介護 の基本であるという認識を深め、身体拘束を行わない介護を全職 員が理解できるようにしている。また「指定基準における禁止の対 象となる具体的な行為」を見やすいところに掲示して、日常的に確 認できるようにしている。	
			(外部評価) 玄関は施錠しておらず、又、居間の吐き出し窓からは中庭の様 子がよく見えて、段差なしで出られるようになっている。又、廊下突 き当たりから日当たりの良いテラスに出られ、利用者と職員で畑の 様子を見たり世話したりしている。事務所に「身体拘束の禁止の対 象となる具体的な行為」について掲示している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修会に参加して理解を深め虐待につながらないように注意している。法人内での勉強会では職員の自己チェックリストを用いて正しい認識を徹底して、入居者の基本的人権や尊厳を守り支援を勧め、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護制度利用の該当者は現在はいないが、今後必要性が生じた場合は各関係機関と連携しサービスを推進する。日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修会に参加して職場内でも更に勉強会を開き全職員での理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は契約書や重要事項説明書、医療連携体制及び看取りの体制等について十分説明し納得を得るようにしている。契約書等の改正時は快晴資料を提示して詳しく説明し同意を得ている。契約解除に置いては本人や家族の意向を考慮し今後の相談をする体制になっている。不安や疑問についてはその都度説明し理解を得るように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の生活場面で本人の言動や会話や表情から要望を見出し、職員間で共有して対応策を検討し、満足して頂くようにサービスの向上に努めている。多様な行事を通して、家族との関わりを大切に、信頼関係を築き運営に関する多くの要望や意見を見出すように努めている。 (外部評価) 行事時の前後に家族会を開き、事業所からの連絡事項等を伝えている。日頃は、来訪時や電話で利用者の日常の様子を細やかに伝えており、「何か気付いたことはないですか?」「要望はないですか?」とそのたびに聞いている。毎月、家族に向けて便りを発行しており、ケアの取り組みについて具体例を挙げて紹介したり、活動等を具体的に知ってもらえるように、写真入りで報告している。家族は、事業所の利用者等へのかかわり方やケアに安心を感じており、満足度がとても高い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月開催する職員会議は全員参加で実施している。職場内の問題点や改善策など、なた、介護内容についてなど皆で話し合っている。更に毎日のミーティングや、勉強会においても一人ひとりの意見や考えを大切にして、働く意欲の向上やサービスの質の確保につなげている。	
			(外部評価) 職員同士、「笑顔で指摘し合える関係」を目指しており、管理者は、馴れ合いにならないよう、けじめをつけることを大切にして、いいこと、いけないことをしっかりと職員に伝えている。法人のリーダー会で話し合い、職員の子供が保育園に通う場合は、保育料の7割を法人が負担してくれることになっている。又、採用時に無資格であった職員も現在5名が介護福祉士、内2名がケアマネジャーの資格を取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 向上心を持って働けるよう、スキルアップの段階に応じて昇給の体制も整っている。また子育てと仕事の両立ができやすいように勤務体制への配慮も行っている。人員の余裕があるため有休休暇が取りやすく、ここ数年は離職もなく、職員全員が勤続5年以上となっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職場内研修、各職員ごとの研修、就業時の新人研修と年間計画を作成し、段階的なスキルアップを図れるように実施している。順次経験年数により各資格を取得してやりがいや張り合いが持てるような支援システムが構築されている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 内子町グループホーム連絡会を自主的に作り、毎月介護サービスについて等情報交換をしたり、年間を通して研修会や勉強会、運動会などを開催し入居者や家族、地域住民や運営推進委員、行政などにも協力を得ながら地域に開かれたグループホームとして活動している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で自宅を訪問しご本人の生活状況や生活習慣、馴染みの物や場所等について把握し、ご本人やご家族の状況等についても理解し、緊張や不安が少なく入居生活が送れるように関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の状況を把握し共有すると共に本人を取り巻く家族の状況や、家族間での思いや考え方の違いなども把握して、家族と一緒にご本人を支えていく姿勢を持ち、徐々に本人への思いが重なり合い励まし合える関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の困っている事や不安な事など何でも相談して頂き必要としている支援は何か見極めている。他のサービス利用が必要な時には速やかに紹介し調整が出来るようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側と支援される側にとらわれず毎日の暮らしの中で一緒に笑ったり、家事的作業を一緒にしたり、外出して楽しんだりと同じ家族のように、共に支え合う関係づくりをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 今までの暮らしを大切にして家族との情報共有を密にしながら、本人や家族の気持ちを大切にして、常にサービスや運営における意見や要望を聞きだし、ご本人の自立支援に於いて一緒に支えていけるように協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人の思いや気持ちを大切にしながら話を聴き、馴染みの知人や友人近所の人達等の地域との交流を継続できるように、御家族とも意向を確認しながら交流できるように支援体制を整えている。 (外部評価) 家族に、利用者本人の知り合いが訪ねて来てくれることの大事さを伝えており、家族は、孫やひ孫、姪や親類を連れて来てくれる。子どもが来た時には、喜ぶ飲み物やお菓子を出してもてなしており、家族の飲み物の好みを職員はよく把握している。さらに、来訪時には思い出になるように写真を撮るようにしている。墓参りの希望がある方に沿った支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合うもの同士での交流が自然に持てるような働きかけのなかで、更に注意して見守りながらふとしたきっかけより新たな関係性が見出せるように散歩や野菜作りの協働を勧めたり、また少人数での外出を実施したりして関係を深める支援をし、孤立する事がないように心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退職した職員や元入居者のご家族等がずっと継続して遊びに来ていただき、ボランティアとして、入居者との話し相手になったりして交流を図っている。またうちこ園祭りや、運動会などにはその友達などの輪が少しずつ広がり地域交流へとつながっている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を使用して一人ひとりの希望や意向等の情報を職員間で共有し日々の介護に活かしている。センター方式の記入には家族にも参加していただき意向の把握に努めている。意向や希望は固定化せず成り行きや場面、介護の状況等によって変化していくことも考慮しながら、その時々での意向も確認するようにしている。 (外部評価) 入居時には家族に、長年馴染んだ習慣や好み等を書いてもらっている。又、現在の状況、又、暮らしの希望等についての情報を整理している。自宅に帰る予定がある利用者には、食材の買い物帰りに寄り道して、自宅改修の進み具合を見に行く等、本人が納得いくように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 自宅での生活の習慣やご本人の生活の歴史、また自宅周辺の環境及び家族関係についてなど、入居に至る経過を把握し、入居後も引き続きセンター方式シートを活用して、総合的な理解把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の個別の生活スタイル、リズムに添って出来ること、できないことの日差変動及び日内変動の状況を細かく観察し、その時々に応じた対応を心がけ、職員全員で共有し把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の生活から介護の組み立てにより客観的な視点での介護内容を家族や職員が共有し、よりよく生活するための支援を盛り込むようにしている。個性や意向を大切にして本人や家族、職員や主治医、関係者等の気づきや意見を検討して総合的な介護計画を目指している。	
			(外部評価) 家族に介護計画内容を説明して「他に気になる点、こうしてほしいということはないですか?」と聞き取り、要望を採り入れている。事業所では「日々をどう支えていくか」の視点で計画を作成しており、日常生活を続けていけるように計画を作成している。「モニタリング総括表」にて、実践状況やサービス満足度・目標達成状況を3段階で表わしている。	アセスメント表には利用者の暮らしの希望についての情報を整理している。今後は、その情報を介護計画につなげてさらなる利用者主体の生活支援に取り組んでほしい。家族や地域資源等も活用しながら支援に工夫してみてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) SAOP式の介護記録形式にて出来ること出来ない事、介護状況についてや身体状況の変化による日内変動、日差変動及び食事や水分摂取状況等を日々記録することで情報を共有しセンター方式を含めて個別記録と介護計画が総合的に連動できる体制にしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎等の柔軟な対応にて重度化及び高齢化に伴う家族状況や要望に応じていくように支援している。法人内の施設や機能を活用して生活リハビリを充実させ自立支援が図れるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の公園や神社、街並みの展示物や催し物を見学に行くなど、文化的でより豊かな暮らしを楽しめるよう地域資源を活用している。また、少しでも生き生きとした暮らしができるように地域の力を借りて勧めている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			入居者一人ひとりの主治医の継続的な医療が受けられるように、また受診時の送迎をしたり、生活状況及び身体的一般状態を細かく報告し医療連携を図りながら、異常の早期発見に努めている。また家族への連絡も詳細にしてご本人の情報を共有している。	
			(外部評価)	
			家族と協力し合って、利用者のかかりつけ医の受診等を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			介護職員は毎日のバイタルサインや日常の関わりから感じ取った気づきや変化を管理者の看護師に随時報告し健康管理を行っている。また主治医との連携を密に図り医療面や栄養面での助言が日常的に気軽に受けられる体制が整っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時は病状や入院治療方針を家族とともに説明を受けたり病院の看護師や本人及び家族と情報交換を図り退院後の留意点についても把握できるように積極的に働きかけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			医療連携体制及び看取り介護に関する指針について説明したり文書にて共有し、重度化や終末期の対応について本人や家族及び主治医を交えて一緒に検討したり、同意書を作成して方針を統一している。ご本人の病状の悪化時は主治医の意見を踏まえて、家族と検討を重ね合い、その時々の方々の家族の気持ちの変化にも柔軟に対応するように努めている。	
			(外部評価)	
			家族からの希望に沿って、協力し合い看取りを支援した事例がある。家族が泊まって看れるように、食事等を用意してサポートした。事業所で看取りを支援した方の家族が、継続的にボランティアとしてかわってくれているケースがある。行事時に家族が欠席したような利用者に付き添ってくれている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命講習会に参加して救命技能を経験できるようにしている。また緊急時の対応マニュアルや母体である老人保健施設との協力体制にて応急手当や連絡方法等の留意事項を周知して職員会議でも話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力によりグループホームを主体にしたり、夜間想定による訓練をして、避難誘導や避難経路の確認、消火器の使用法の訓練をおこなっている。法人内には災害時に備えた日用品や食料品、飲料水を備蓄しており万が一の場合に備えている。町内での一斉避難訓練が実施され当園に於いて地域の多数の住民と協同で避難訓練や消化訓練を実施した。 (外部評価) 高台にある事業所で、火災発生時には地域の協力が得にくいため、敷地内の法人介護施設と協力し合えるように毎回、合同で訓練を行っている。法人で備蓄があるが、事業所内にも缶詰等を備蓄している。町内グループホームや家族、地域の人と合同で行う運動会時には、新たに「避難訓練」という種目を設け、簡易担架を作って運ぶ早さを競い、楽しみながら訓練時の体験ができるよう工夫した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者と敬語で接することを基本としている。排泄や入浴などの介護に於いては自尊心とプライバシーを守るように注意しながら対応している。入居者が介護されているという意識を持たないようにさりげなく介助するようにこころ掛けている。 (外部評価) 職員の人員配置を手厚くして、個別で細やかな対応ができるよう取り組んでいる。調査訪問時、利用者は、テーブル席で編み物をしたり、塗り絵、縫い物、洗濯物たたみ等を行いながら過ごしていた。利用者には基本的に敬語で言葉かけして、穏やかに対応している。目の不自由な利用者には、そばで一つひとつ説明をしてイメージできるように支援していた。他利用者の仕草等が気になる利用者があり、テーブルには背の高い花を活けたり、絵の額を置いたりしてお互いのことが直接見えないような工夫を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中で入居者ひとり一人を観察し表情などから意思を確認しながら勧めている。本人が選べる場面を作り出して無理強いしないように注意工夫しながら個別性のある支援を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりその日の体調に合わせて、出来る事やりた いことの意向を確認しながら天気の良い日には散歩に 出たり、買物外食や花見見物などをしたり、また必要 時は医療機関に受診に行くなど、柔軟に対応できるよ うに職員は余裕をもって支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 毎朝整容の介助を行い、自分で整容される方は衣類の ずれや組み合わせなどにも注意して身だしなみに気を 付けている。また訪問美容を利用してカットや毛染め などをしておしゃれをしたり、行きつけの美容院があ れば送迎などの支援も出来る体制が整っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑から収穫した旬の野菜を使ったり、地域の市場で野 菜を選んで買い物した食材を、一人ひとり出来る範囲 で下ごしらえに参加して頂く、やがて良い匂いがして きて味見をして判断を仰ぐなど、料理が出来上がる喜 びを感じてもらっている。食後は自分の食器の洗浄を するなどの片づけもしている。 (外部評価) 「おいしいものを食べる」ことを大切にしており、畑で育てた野菜や 産地直売所で購入した野菜等を使用して食事を手作りしている。こ れまで作った食事のレシピを写真入りでためており、どの職員が調 理しても同じ味になるように工夫している。レパートリーが豊富で季 節感や栄養、バランス、彩りを考えた献立になっている。テーブル 席に座ることがしんどいような利用者には、ソファの前にテーブル を置き、職員と一緒に食事をしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分等の摂取量は詳細に記録し一人ひとりの状 態を把握して栄養のバランスや水分量が確保できるよ うに支援している。また、職員及び家族や主治医が日 常生活の細かな情報を共有して元気な体づくりに役立 てている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを実施して清潔で衛生的な状況を保っ ている。一人ひとりにあった歯磨きでスポンジブラシ や歯間ブラシを使用して口腔ケアの支援をしている。 義歯は毎日就寝前に消毒して清潔にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し尿意のサインや意志表示を見逃さないように観察して適宜誘導し、トイレでの排泄を勧めている。尿パットの活用により、昼間は出来るだけトイレで自然に排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 利用者個々の状態やパターンを把握して、そっと声をかけ促したり手振りで合図して誘導して支援している。居室2部屋に1つトイレがあり、一人で使用可能なトイレもある。目の不自由な利用者の居室には、ベッドからトイレまでひもをたどって自分でトイレに行けるように工夫している。トイレ前のひもの部分には小さな鈴をつけていて、職員は音がすると見守りに行き、支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維の多い野菜やイモ類などをメニューに取り入れ、果物や乳製品などを毎日摂取できるようにして、散歩や体操などを毎日実施して自然な排泄が出来るように取り組んでいる。また便秘気味の方にはゴマ、オリーブ油、センナ茶等を使用して排便の管理をしている。	
			(外部評価) 入居者の希望にあわせていつでも入浴が可能なように浴室環境を整えている。本人の希望で暑い時期はシャワーだけにしたり、畑作業後すぐシャワーをして汗を流して頂くなど一人ひとりの状況や希望に応じて多様な対応ができる体制を整えている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者の希望にあわせていつでも入浴が可能なように浴室環境を整えている。本人の希望で暑い時期はシャワーだけにしたり、畑作業後すぐシャワーをして汗を流して頂くなど一人ひとりの状況や希望に応じて多様な対応ができる体制を整えている。	
			(外部評価) 利用者個々に週3回程度入浴できるよう支援している。利用者の状態によっては布を使って浴槽で温まれるよう支援したり、スポンジマットを敷いてシャンプーする等工夫して支援している。冬場はゆず風呂を楽しむ機会が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの身体状態やその日の体調を把握し日中でも適宜居室で休めるように誘導している。また日中は活動を促し散歩や外出などに誘導して日常生活のメリハリをつけて夜間の安眠がしやすいように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される薬説明書を各個人記録と共に綴り内容を認識し共有している。1回分ずつ手渡して服薬の確認をし、誤薬のないように注意している。また下剤などの利用者については日頃の排泄状況等の観察とあわせて必要時は主治医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者の対応力に応じて、物作り作業を計画し材料をそろえる事から一緒に実施し、残存能力を引き出すようにしている。また洗濯物を干したり、料理の下ごしらえ、野菜作り、花の植え替えなどの出番を作り活躍できるように支援している。喫茶店でコーヒーや紅茶などを楽しんだり、買物や外食で気分転換を図ったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買物や地域の役場などへ一緒に出かけたり、少し遠くの集合店に足を延ばしたり、一人ひとりの移動能力や希望にあわせて気軽に出かけている。四季折々の花を探して見物したり、神社やお寺をめぐるたりして満足できるように支援している。また、本人や家族の要望を聞き、毎日行っていたお墓参りに出かけ喜ばれた。 (外部評価) 公園や買い物、外食や季節の花を見にドライブする等、利用者の希望を聞きながら日常的に外出できるよう支援している。外出時の写真は廊下に掲示している。職員は、以前、低部動物園に出かけた際、利用者が喜ばれたことを大切な思い出として話しており、今後も利用者の状態等をみながら、普段は行けないような場所への外出を計画したいと話していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 財布やバッグの中に少額のお金を自分で持って、時々残高を計算するなどされている。買物や外出時は一緒に金額を確認し「安い、高い」と勘定しながら相談して選んだりレジで実際に支払いをしてもらうこともある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はコードレスの受話器にて適宜自室でゆっくり会話する事もできる。本人の要望にていつでも電話ができるように、職員からも声かけして通信体制を整えている。遠くの家族からの贈り物のお礼にはがきをしたためて送れるように支援している。一人ひとりの力量に応じて年賀状を作製してご家族や孫など親族に送り飲んでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室と廊下の空間に暖簾で仕切りちょっとひと休みできるように椅子を置き個室と共用間の界にしている。居間や食堂台所は仕切りがないので気兼ねなく入り作業がし易いようになっている。畳の間はコタツや火鉢を置き冬場の暖がとれるようにしている。温度計湿度計にて気温を管理し排煙窓の開閉により冷暖房の空気の淀みを解消し環境整備に努めている	
			(外部評価) 玄関先には花を植え、畑には季節ごとに野菜を育てている。室内のしつらは、暖色の色調で落ち着きがあり、又、テレビや音楽の音量、職員の声の大きさ等にも利用者が落ち着けるように配慮をしている。中庭と居間はフラットになっているため開放感があり、明るい。調査訪問時には一面に桜紅葉が眺められた。歩道が整備されており、散歩もできる。台所から食事ができる匂いがしたり、生け花の先生が来て草花の香りを嗅がせてくれたりして、五感を刺激するような環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ベランダやテラスに椅子を置き畑の育ち具合や園庭を見つめたり、廊下や居間のあちこちにちょっと座って一呼吸置けるスペースを設けている。居室の入り口には椅子兼収納になったスペースがあり、居室と廊下のさりげない空間となり落ち着く場所となっている。玄関の外内の椅子は出入りの靴の履き替えや面会者のお見送りなどさまざまな用途にて重宝している。	
			(外部評価) 居室からは、中庭や外の様子がよく見える。各部屋に自分専用の洗面台があり、それぞれに整容や歯磨きの道具を揃え、自分で行えるよう支援している。布団を廊下の押入れにしまっ、日中は室内を広く利用できるようにしているところもある。以前は自分で行っていたが、現在は、職員が布団をしまっ利用者枕をしまっしている。冷暖房は職員が調節している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の協力により自宅で使い慣れた物や、自分が作成した作品などの馴染み深い品物を持ってきてもらい居室に置くことで、「ここは何処だろう」と急に不安になる人でも自室に入ると安心され納得される方もある。一人ひとりの安心の源を増やしていくように努めている。	
			(外部評価) 居室からは、中庭や外の様子がよく見える。各部屋に自分専用の洗面台があり、それぞれに整容や歯磨きの道具を揃え、自分で行えるよう支援している。布団を廊下の押入れにしまっ、日中は室内を広く利用できるようにしているところもある。以前は自分で行っていたが、現在は、職員が布団をしまっ利用者枕をしまっしている。冷暖房は職員が調節している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の名札やトイレなどの表示は入居者一人ひとりの目線に合わせるようにしている。食堂のテーブルは季節の花や飾り物などを並べて、自然に季節が把握できるようにして、入居者の目線で環境を整えるように努めている。	